京都市立病院
連携だより

vo.56
令和7年4月

- 新院長就任のご挨拶
- 新副院長就任のご挨拶
- 新任部長就任のご挨拶
- 整形外科のご紹介
- 認定・専門看護師のご紹介

「桜咲く」
満開の桜の中を通ります（樽見鉄道・岐阜）
撮影：糖尿病・代謝内科部長　小暮 彰典

京都市立病院機構理念

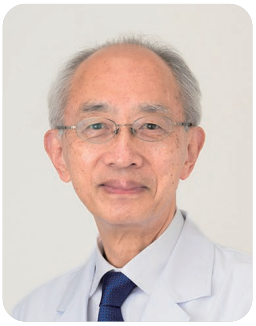
京都市立病院機構は

- 市民のいのちと健康を守ります
- 患者中心の最適な医療を提供します
- 地域と一体となって
  健康長寿のまちづくりに貢献します

京都市立病院憲章

1　質の高い安全な医療を提供するとともに、地域の医療水準の向上に貢献します。
2　患者の権利と尊厳を尊重し、心のこもった医療を提供します。
3　救急や災害時における地域に必要な医療を提供するとともに、
　地域住民の健康の維持・増進に貢献します。
4　病院運営に参画する事業者等とのパートナーシップを強め、健全な病院経営に努めます。
5　職員の育成に努め、職員が自信と誇りを持ち、
　全力で医療に従事できる職場環境を作ります。

新院長就任のご挨拶



院長 **清水 恒広**

令和7年4月1日より地方独立行政法人京都市立病院機構理事長および第17代京都市立病院長を拝命致しました。 京都市立病院へは平成13年に感染症科部長として赴任し、令和2年からは副院長として、流行し始めたばかりの新型コロナウイルス感染症対応に追われる中、病院の運営や管理に携わってまいりましたが、このたび、黒田啓史前院長の後任として、大任を仰せつかりました。病院の運営や経営の面ではまだまだ勉強することは多々ございますが、粉骨砕身努力する所存ですので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

まず、令和5年度からの当院の状況について少し触れてみたいと思います。当院は現在地域がん診療連携拠点病院として、安全で質の高いがん医療の提供を推進しておりますが、その経過の中で、手術治療については平成25年（2013年）に手術支援ロボットダヴィンチSiを導入し、その後ダヴィンチXiへと機種変更はありましたが、長らくダヴィンチ 1台体制で臨んでおりました。しかし2024年2月より、さらに低侵襲で整容性に優れたダヴィンチSPを新たに稼働させ、この2台を使い分ける体制で手術件数の増加に取り組んでおります。昨年からは、それまでの泌尿器科、呼吸器外科、消化器外科の3診療科に加え、産婦人科でもダヴィンチによる手術を開始し、4診療科によるロボット手術の令和6年度実績（手術件数）は、昨年度実績の1.2倍を超える見込みです。

また、当院では、がんを経験された方、治療中のご家族を持つ方が、治療を受けながら考えていること、生活の中で抱えている気持ちや不安など、安心してご相談いただける窓口として「がん相談支援センター」を設置しています。当院のこの「がん相談支援センター」が、令和7年1月から、国立がん研究センターによる「認定がん相談支援センター」に京都府内では初めて認定されました。当院のがん患者さんに寄り添う相談支援が高く評価されたものと、担当職員一同の励みになっており、今後一層充実した相談支援に取り組む意気込みです。

一方、令和6年10月に、ドイツシーメンス・ヘルシニアーズ社製の最新鋭のバイプレーン血管撮影装置を導入し、11月中旬より本格稼働させ、血管内治療を積極的に進めております。この新しい機器の特徴は、透視・撮影線量の大幅な低減と、高精細な画像構築能力による視認性の向上にあり、患者さんにはより安全かつ安心に受けていただける治療となっています。

昨年度から始まりました医師の時間外勤務の上限規制を伴う「働き方改革」への対応では、勤怠管理システムを整備し病院全体で職員の勤務時間への意識を高めることで、医師の時間外勤務は、ごく一部の診療科を除き厚生労働省が進める方針に則った時間内に収まっています。今年度は、DXを利用した看護師業務の効率化に向けたしくみを導入し、看護師の時間外勤務の縮減に取組む予定です。DX推進ではさらに、地域連携室でのWeb予約システムを今年度比較的早い時期に導入することになっています。医療機関の皆さまにおかれましては、診療の場で患者さんにお待ちいただくことなく、迅速かつ確実に、当院への受診予約をお取りいただけるものと思っております。現在令和7年6月稼働に向けて、連携室職員一同、着々と準備を続けております。

包括的ながん診療は当院の主要な診療機能のひとつですが、自治体病院としての責務である、感染症医療、災害医療、救急医療、小児・周産期医療など政策医療については、「市民のいのちと健康を守ります」という京都市立病院機構の理念のもと、引き続き積極的に取り組む所存です。しかし、昨今の診療報酬改定や働き方改革の状況を見ますと、当院のような高度急性期、急性期病院にとって、病院運営は非常に厳しいものとなっています。今後とも、病診連携、病病連携などさまざまな連携が可能となるよう努めてまいりたいと思います。地域の皆さまにおかれましては、さらなるご支援を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

令和7年4月

新副院長就任のご挨拶

副院長 **宮原　亮**

この度、令和7年4月1日付けで京都市立病院副院長職を拝命いたしました。京都に生まれ、京都に育ち1988年に京都大学を卒業後、胸部疾患研究所理学呼吸器科に入局し呼吸器系疾患であれば内科も外科も診れるようにと教育されました。大津赤十字病院呼吸器科での8年を経て京都大学院大学大学院器官外科学（呼吸器外科学）講座に進みました。大学では主にUFTの抗腫瘍効果について研究し、UFTが早期肺癌術後補助化学療法の標準となるお手伝いをしておりました。

MDアンダーソン癌センターへの留学を経て京都大学呼吸器外科へ帰学し、講師の時にご縁がありまして京都市立病院呼吸器外科部長として平成23年1月に着任いたしました。京都市立病院では、すでに確立していた低侵襲胸腔鏡視下手術を引き継ぎ、平成25年以降ロボット支援胸腔鏡手術 da Vinciシステムを泌尿器科とともに当院に導入し、その後近畿圏の他病院のロボット手術立ち上げのお手伝いをしてまいりました。院内では令和3年4月より診療部統括部長として診療部と理事会のパイプラインの役目を行ってきました。令和5年1月からは、京都市立病院がん医療連携センターを立ち上げて、がんと診断を受けたときから患者中心の切れ目のない医療の提供を目指しています。そのために、院内多部署の連携及び地域医療機関との連携を充実させるように活動しております。

これまで京都市立病院が担ってきた政策医療の一つ一つをさらに推進して、市民の命と健康を守っていけるよう努力してまいります。地域医療機関の皆様からは、これまでと変わらずご指導いただきますよう宜しくお願いいたします。

新任部長就任のご挨拶

放射線診断科部長　**早川 延幸**

令和7年4月1日より、藤本良太先生の後任として放射線診断科部長に就任いたしました。

私は平成16年に島根医科大学を卒業後、大津市民病院で初期臨床研修、田附興風会医学研究所北野病院で放射線科医師としての専門研修を行った後、兵庫県立尼崎病院を経て京都大学大学院放射線医学講座（画像診断学・核医学）で核医学の研究を行いました。大学院卒業後は留学、日本赤十字社和歌山医療センターでの勤務を経て平成30年4月より京都市立病院放射線診断科に勤務しております。

専門は腫瘍核医学にはなりますが、当院では領域に関わらずCT、MRI、核医学検査、単純写真、超音波検査など幅広く画像診断業務を行っております。また、当院赴任後はIVR科の前部長である谷掛雅人先生のご指導の下、これまで経験の無かった非血管系のIVRに携わる機会も得ました。まだまだ手探りではありますが、術前のCTなどの画像から綿密に計画を立て、安全性を保てるように手技を行っております。

他の分野と同様に、近年の画像診断関連の技術の進歩もめざましいものがあり（当院のMRIでは人工知能も画像再構成に利用されています）、高画質の画像が短時間で大量に得られるようになりました。当院放射線診断科は医師の数は比較的多いものの、業務の範囲が広い上に大量の画像を読影しなければならないため、医師の業務負担は決して少なくありません。このような環境の下でも引き続き質の高い検査、画像診断レポートを皆様に提供できるよう、適切な業務配分を行う事が私の一つの役目と考えております。

最後に、当院では適切な画像をご提供出来るよう、画像診断医が依頼内容を吟味してCT、MRIの撮像プロトコルを決定しております。時に先生方からのご依頼内容に関し、問い合わせや場合によっては検査内容の変更をさせて頂く事もございますが、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

整形外科のご紹介

整形外科部長　鹿江　寛

はじめに

整形外科は四肢や脊椎の疾患を取り扱う診療科です。近年の高齢化社会の影響でそのニーズは高まる一方で京都市立病院のなかでもトップクラスの業績を残しており、機構の運営に貢献しています。当院は急性期病院ですから、基本的には手術を行うことを中心に業務を行っており、リハビリ期に入った患者さんは回復期リハビリ病院に転院していただくこととして50床の病床運営を行っています。しかし、満床となることも多く救急や外傷の受け入れ率では課題を残しているのが実情です。

基本診療方針は以下の5つです。

①日本整形外科学会ガイドラインに基づく整形外科診療
②高齢化社会の問題点である関節・脊椎疾患に高度な医療を提供する
③地域医療機関との連携と役割分担
④治療安全と負担軽減のための診断と治療法の導入
⑤治療法啓発のための院内外活動

診療体制

2025年4月の時点で 整形外科医師総数は10名でうち3名は専攻医、1名はリハビリテーション科専任医、日本整形外科学会専門医は5名在籍しています。

主任部長の鹿江医師はリウマチ診療と外傷診療を担当し、脊椎外科部長の竹本医師、人工関節部長の金医師と3名部長体制で診療を行っています。

それ以外のスタッフは奥村副部長、土井医長、髙橋医長、内田医員（女医）で、専攻医は安里医師、佐野医師、福間医師（女医）です。

診療内容

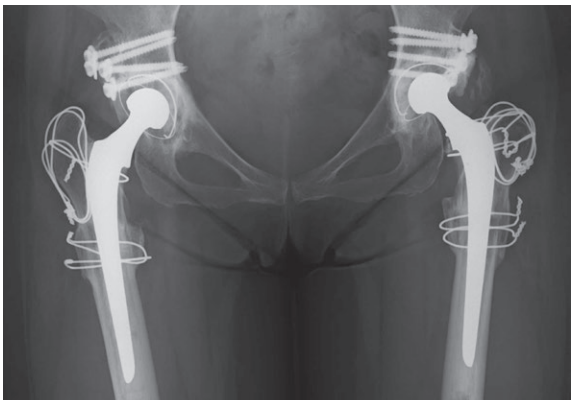
当科の診療の3本柱は脊椎外科、人工関節外科および外傷外科です。

脊椎外科では竹本医師を中心に、圧迫骨折に対するバルーン椎体形成術などの低侵襲の手術から脊椎側弯症などの広範囲固定の大きな手術まで様々な手術を行っています。とくに矢状面アライメントを重視しており、前方後方同時手術も数多く行っています。術前にCT画像をコンピューター解析し設計図を作成し、可能な限り強固に固定することで後療法を短縮化できるよう配慮しています。

人工関節外科では金医師を中心に 股関節も膝関節も骨セメントを使用した人工関節を行っており、セメントレス手術と比較して手術時間はやや長くなりますが、直後からの痛みのない荷重が可能となっております。長期フォローアップしている症例も多いため再置換術や人工関節感染・人工関節周囲骨折など難易度の高い手術も多く行っています。最近では股関節も膝関節もナビゲーション手術を取り入れ設置位置の再現性を高めています。

外傷外科でも患者さんの全身状態を評価し、可及的早期に手術を組むようにしております。学会や研究会に参加し積極的に新しい手術法も取り入れ、最新の医療を心がけています。

どの手術も可能な限り早期リハビリ、早期退院、早期社会復帰を目指しています。



地域連携

地域の医療機関からの紹介を受け入れ、手術後に元の医療機関に戻っていただくことを基本としています。地域の医療機関との病診連携の会を定期的に開催し、地元の医師会の講演や医療相談にも参加したり、京都市立病院YouTubeサイトでも講演を行うことで啓発活動を活発に行っています。

診療実績

令和6年度の新入院患者数は73.5人/月で、紹介患者数は60人/月 でした。

2024年の手術件数は、総計939件、うち脊椎手術が332件、初回人工股関節手術が176件、人工股関節再置換術12件、初回人工膝関節手術112件、人工膝関節再置換術が3件、四肢の骨折手術が112件でした。

脊椎と人工関節に関しては、京都府内でもトップクラスの手術数となっています。

最後に

いつも大変お世話になっております。京都市立病院では専門的な診療が必要な患者さんへの対応を充実させることと待ち時間の短縮の目的で現在11の診療科で完全予約制を導入しています。整形外科でも2024年6月から初診紹介・再診予約制となりました。地域連携室を経由して予約受診するとより待ち時間が少なくなりますので、ぜひ患者さんをご紹介くださいますようお願いいたします。

今後とも、地域の患者さんのより良い診療に向けて努力を続けてまいりますので、これまでと同様に、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

認定・専門看護師のご紹介

「私たち」が大切にしていること

看護師は、患者さんとのつながりを大切にし、対話を重ねながら信頼関係を築いていくことに意味があります。たとえ悩みそのものをすぐに解決できなくても、患者さんが抱えている苦しみに寄り添い、一緒に思いを分かち合うこと自体に価値があるのではないでしょうか。

話をじっくり聞いてもらえたことで、「自分の存在が認められた」と感じることが、患者さんにとって大きな支えになることもあります。実際、しばらく話をした後の患者さんの表情がどこか穏やかになっているのです。

私たちは、そんな看護を大切にしていきたいと考えています。

患者さんの生活と、いのちを支える看護専門外来

専門的な知識を持つ看護師等が※1、情報提供や不安・悩みの相談に対応しながら、在宅療養を継続できるようにセルフケア支援を行うことを目的として、看護専門外来（以下「専門外来」といいます）を運営しています。

専門外来では、患者さんやご家族が抱えるさまざまな心配や悩みに寄り添い、適切な助言や支援を提供します。病気や治療に関する情報提供だけでなく、日常生活の工夫や心理的サポートにも力を入れています。

対象となる分野は11分野です。それぞれの分野で、患者さん一人ひとりの状況に応じた看護を提供し、安心して療養生活を送れるよう支援しています。

■各専門外来の内訳

領域の内訳	担当看護師
がん看護外来（カウンセリング）	がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師
ストーマ外来	皮膚・排泄ケア認定看護師
リンパ浮腫外来	リンパ浮腫療法士
乳がん看護外来	乳がん看護認定看護師
放射線療法看護外来	がん放射線療法看護認定看護師
造血幹細胞移植後長期フォローアップ外来（成人・小児）	学会等の指定研修を受けた看護師

領域の内訳	担当看護師
フットケア外来	糖尿病看護認定看護師、学会等の指定研修を受けた看護師
腹膜透析看護外来	透析看護認定看護師、腹膜透析認定指導看護師
腎代替療法選択外来	透析看護認定看護師、慢性腎臓病療養指導看護師
糖尿病透析予防外来	糖尿病看護認定看護師
物忘れ看護外来（認知症ケア）	老人看護専門看護師、認知症看護認定看護師

※1）専門的な知識を持つ看護師とは、専門看護師、認定看護師、学会等の指定研修を受けた看護師のことを指します。

がんに関する相談支援と情報提供：相談支援センターとの連携

がん相談支援センターでは、一人でも多くの患者さんやその家族が、がんになっても安心して暮らせるよう、信頼できる情報をわかりやすく提供し、相談者自らが意思決定し行動できるための支援を行っています。

当院は、相談支援の質の高さが評価され、国立がん研究センターの「認定がん相談支援センター」に認定されています。これは京都府内で初めての施設となります。

各専門外来は、がん相談支援センターと連携し、「アピアランスケア※2」や「仕事と治療の両立支援」に重点を置きながら支援を行っています。

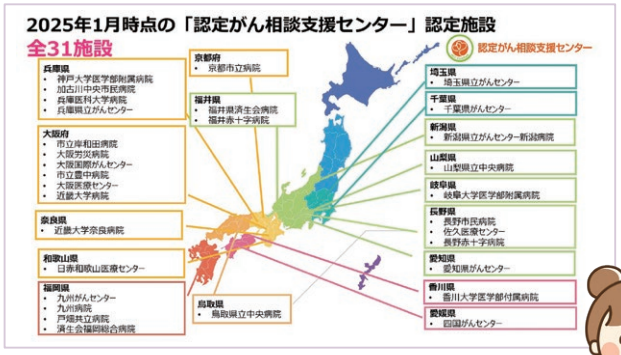
※2）アピアランスケアとは、がんやその治療に伴う外見変化に起因する身体的・心理的・社会的な困難に直面している患者とその家族を支援するため、診断時から包括的なアセスメントに基づき、多職種で支援する　医療者のアプローチを指します。

厚生労働省「令和7年度アピアランス支援モデル事業」を開始します

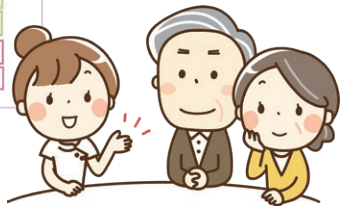
当院は2007年に「地域がん診療連携拠点病院」に認定され、京都乙訓二次医療圏において高度ながん診療を提供するため、がん医療の一層の推進に取り組んでまいりました。2023年には「がん医療連携センター」を設立し、多職種によるがん患者支援体制を構築しており、その中で、治療に伴う外見の変化への支援としてアピアランスケアにも力を入れてきました。

このたび、当院は令和7年度厚生労働省「アピアランス支援モデル事業」の対象病院に採択されました。

本事業を通じて、アピアランスケアの支援体制を一層強化するとともに、患者や医療者、さらには地域住民の理解促進を図り、外見の変化に寄り添う支援を地域全体で推進してまいります。



引用：国立がん研究センターがん対策研究所ホームページ
https://www.ncc.go.jp/jp/icc/cancer-info/project/certification/nintei_c/list.html



編集後記

春の日差しが暖かいこの頃、いかがお過ごしでしょうか。

平素より地域医療機関の皆様には、地域連携室の運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当院は1965年12月1日に開設し、今年で60周年を迎えます。これもひとえに、ご協力いただいております地域医療機関の皆様のおかげでございます。60周年を記念して、地域の方々に楽しんでいただけるようなイベントを企画しておりますので、ホームページなどでぜひチェックしていただけましたら幸いです。

これからも連携だよりにて、当院の魅力を感じていただけますような情報を発信してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

患者支援センター　地域連携室　井関

こちらの二次元コードから、連携だよりについてのアンケートにお答えいただけますと幸いです。

紹介患者さん診療・検査事前予約ご利用のご案内

医療機関用 外来診療・検査事前予約 FAX予約

待ち時間を短く患者さんが円滑に診療・検査を受けられるように、病院及び診療所の先生から『事前予約』をお受けしております。

●予約方法

①「紹介患者さん事前予約申込FAX用紙」に必要事項を記入し、地域連携室までFAXで送信してください。

↓

②直ちに、予約をお取りし、「予約受付票」をFAXで送信します。ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡いたします。

↓

③患者さんに以下をお渡しください。

- 予約受付票
- 診療情報提供書（紹介状）
- フィルム等

↓

④ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受取ったもの

- 予約受付票
- 診療情報提供書（紹介状）
- フィルム等

■別に必要なもの

- マイナ保険証又は健康保険証
- お薬手帳又はお薬のわかるもの
- 診察券

予約受付先

●京都市立病院地域連携室

TEL（075）311-5311㈹（内線2113）

FAX **（075）311-9862（専用）**

●事前予約医療機関専用電話

（075）311-6348

事前予約受付時間（土日祝日を除く）

平　日/8：30~19：00（木曜日は17：00まで）

FAXは、24時間お受けしています。

地域連携相談業務

平　日/8：30~17：00（月曜日~金曜日）

患者さん用 紹介患者さん事前予約センター 電話予約

先生からの紹介状があれば、患者さんからのお電話で、ご自身のスケジュールに合わせた予約をお取りいただくことができます。（※担当医師の指定、検査の予約はできません）

●予約方法

①お電話をされる前に、患者さんには以下をお手元にご用意いただきます。

- 事前予約申込票（必要事項記入済みのもの）
- 診療情報提供書（紹介状）
- 診察券　※初診でもご予約可能です。

↓

②患者さんから『事前予約センター』へお電話いただきます。

専用電話番号 **（075）311-6361**

受付時間/月～金（9：00 ～ 17：00）

※土・日・祝・年末年始（12/29 ～ 1/3）を除く

●ご予約は前日17：00まで受付しております。

▶電話予約時に確認させていただく内容

- 患者さんのお名前（漢字・ヨミガナ）
- 生年月日・性別
- ご連絡先（電話番号等）
- 紹介元医療機関名・予約診療科

↓

③ご来院時、患者さんには以下をお持ちいただきます。

■先生から受け取ったもの

- 事前予約受付票（必要事項記入済みのもの）
- 診療情報提供書（紹介状）
- フィルム等

■別に必要なもの

- マイナ保険証又は健康保険証
- お薬手帳又はお薬のわかるもの
- 診察券

健康診断や人間ドック、各種検診で「要精密検査」となった場合でも、上記と同様の手続きで事前予約が可能です（初診でも予約可）。ぜひご利用ください。

※ただし、市立病院で人間ドックを受けられた場合は、健診センターでの予約となります。

専用の申込用紙は、京都市立病院のホームページからダウンロードが可能ですので、ぜひご利用ください。

LINE

京都市立病院 LINE公式アカウント 開設しました！

お友だち追加はこちらから！

二次元バーコードからお友だち追加

右の二次元バーコードを読み取り追加してください。

ID検索からお友だち追加

LINEアプリの「友だち追加」→「友だち検索」→「ID/電話番号」より右のIDを入力し追加してください。 ▶ID：@433bwxjh

当院のイベントに関する最新情報を月2~3回配信しています！

地方独立行政法人 京都市立病院機構

京都市立病院 地域連携室

〒604-8845　京都市中京区壬生東高田町1-2

TEL 075-311-5311（内線2113）　FAX 075-311-9862

事前予約医療機関専用電話（地域連携室直通）075-311-6348

https://www.kch-org.jp/